

# 内閣府「環境問題に関する世論調査」の結果

2019年10月25日

まとめ：ごみかん運営委員 小野寺 勲

環境問題に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とするため実施したアンケート調査の結果。2～3年ごとに実施。全国の18歳以上の日本国籍を有する者3,000人を対象として、2019年8月22日～9月1日に調査員による個別面接聴取法で調査。有効回収数1,667人（回収率55.6%）。

今回のアンケートでは、プラスチックごみ問題と自然共生社会について質問しており、ここには、プラスチックごみ問題についての回答結果をすべて掲載しました。

**表1 プラスチックごみへの関心度** (%)

非常に関心がある	33.5
ある程度関心がある	55.5
わからない	0.1
あまり関心がない	9.1
まったく関心がない	1.7

**表3 過剰だと思うプラスチック製容器包装・製品（複数回答）** (%)

お弁当で使う使い捨て小分け用容器や飾り	50.3
レジ袋	50.1
通販などで使用される包装、緩衝材	45.8
飲み物と一緒に提供されるストロー・かき混ぜ棒	44.8
食べ物と一緒に提供されるスプーンなどの食器やおしぼり	36.9
イベントで配布されるうちわ	35.0
ペットボトルのラベル	34.7
スーパーなどでのレジ近くに置いてあるロール状のポリ袋	30.2
ペットボトル	27.0
その他	0.2
特になし	5.6
わからない	0.8

**表5 代替製品の購入条件** (%)

価格と品質ともに、こだわらず代替製品を購入	13.7
従来品と比べて品質が同等以上であれば、多少価格が高くても購入	22.9
従来品と比べて価格が同じか安ければ、多少品質が低くても購入	20.8
従来品と比べて品質も価格も同等であれば購入	35.5
代替製品を購入してもよいとは思わない	3.4
その他	0.2
わからない	3.7

**表2 プラスチックごみ問題への認識（複数回答）** (%)

海や海岸に捨てられたプラスチックごみにより汚染が生じていること	84.0
海の生物がプラスチックごみに絡まったり誤飲することで、傷ついたり死んだりしていること	78.2
海の生物が小さなプラスチック粒を誤飲するなど、生態系に影響が生じていること	66.5
プラスチックごみが海岸に漂着し、景観が悪化するなど、観光業に影響が生じていること	61.2
川や街、農地に捨てられてプラスチックごみが海に流出することで汚染が生じていること	59.4
プラスチックごみが原因で、漁網への混入や破損など漁業に障害が生じていること	50.7
プラスチックごみが原因で、船舶のプロペラ破損など航行に障害が生じていること	29.9
歯磨き粉などに含まれる微小なプラスチック粒が海に流出することで汚染が生じていること	21.5
その他	0.0
特になし	2.0
わからない	0.2

**表4 プラスチックごみ問題解決に向けた取組（複数回答）** (%)

マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない	56.3
ポイ捨て・不法投棄はしない	53.1
ルールに従ってごみを正しく分別する	52.2
できる限りスプーンなどの食器・ストロー・おしぼり・アメニティグッズを受け取らない	41.1
マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトルなど）をできる限り使用しない	38.0
リサイクル材や、植物を原料としたプラスチックなどを使った製品を積極的に選ぶ	32.3
路上などに落ちているごみを積極的に拾う	24.5
街中や海岸で行われる清掃活動に積極的に参加する	18.2
その他	0.6
今後、新たに取り組んでみたいと思うことはない	5.1
わからない	0.5